

職員メッセージ

私は、検察庁に入庁して2年目になる検察事務官です。

私が所属している総務課庶務係とは、皆様の思い浮かんだとおり、職員の厚生、休暇、勤務時間などの事務を取り扱っている係です。検察独自の事務ではないので、興味を持っていただきにくいとは思いますが、私が庶務係で学んだことをお伝えしたいと思います。

「庶務」と聞くと、単純に同じ事務を繰り返しているように思われがちです。しかし、休暇届の事務処理をとっても、多様なパターンがあり、その都度、考えながら仕事をしなければなりません。その中で、「根拠」に立ち返って検討することの重要性を知りました。あらゆる状況に対応するためには、そのことが何に基づいて決められていて、どうすべきかを知っておく必要があります。私は入庁して日も浅いので、分からないことが多く不安な気持ちになることもありますが、上司の方々が根拠なども踏まえた上で優しく指導してくださるので、法令等に準拠した事務処理を行うようになりました。

堅い話が続きましたが、職場の雰囲気は、大変明るく、仕事も効率良くかつ楽しくできています。「検察庁」と聞くと、堅いイメージですが、仕事と余暇とのメリハリをつけて、楽しむところは皆で楽しむという職場だと感じています。また、同期と食事をしたり、スポーツ観戦に行ったりと充実した毎日を過ごしています。



20代女性

【総務課】

職員メッセージ

皆さん、初めまして。私は、高校を卒業後、18歳で検察庁に検察事務官として採用され、現在、会計課国有財産係という係に所属し、職員や来庁者の皆さんが安全かつ快適に過ごせるように、庁舎管理等の仕事を行っています。

さて、話は変わりますが、私が検察庁に入庁して良かったと感じていることは、職場環境の良さです。まず、人間関係については、上司の人柄がすばらしく、知識が豊富な方ばかりです。日々の業務の中での的確な指示やアドバイスをいただくことができ、困難な事例があったとしても自分一人で悩む必要はなく、相談すれば、周りの方が一致団結して一緒に解決法を考えてくれる温かい職場です。

また、研修制度も充実しており、採用されてすぐに行われる初等科研修、採用から数年後に行われる中等科研修など検察事務官としての専門的知識を経験年数に応じてレベルアップをしながら習得することができ、法律を学ぶ上で非常に充実した環境が整っていて、自分のスキルを磨きながら公務員として社会に貢献することができるとてもやりがいのある仕事だと思っています。



20代男性

【会計課】

職員メッセージ

検察庁は人と関わり合う機会が多い職場です。捜査・公判部門を始め、検務部門、事務局部門での仕事を通じて、警察や裁判所などの関係機関はもちろんのこと、被疑者(容疑者)、被害者や遺族、目撃者など、いろんな立場の人と接する毎日です。

いろんな立場の人がいれば、いろんな意見がありますし、上手いくことばかりではありません。時には被疑者の身勝手な言い分を聞いて腹立たしく思ったり、被害者の方のお気持ちを十分に酌むことができず、申し訳なく思ったり、相手に事情を上手く説明できず、自分の実力不足を痛感したり。

このような毎日は大変ですが、大変な分だけ、この仕事にやりがいを感じますし、なにより、仕事を通じて多くの方と接し、いろんなことを見たり聞いたり、自分なりに勉強したり考えたりすることによって、自分自身が人として成長できていると実感することができます。

公務員として人の役に立つ仕事をしたい。せっかく仕事をするなら、仕事を通じて自分も成長したい。そう思われる方は、検察庁に入るべきです。検察庁に入って、他では経験できない刺激的な毎日を送ってみませんか。もちろん法律の知識がなくても大丈夫！きっと、先輩方が優しく教えてくれるはずです。



30代男性

【刑事事務課】